

避難所運営の状況、 今後、災害が起きた場合に 備えるための提言等

～外国人対応を考える～



(特活) ADRA Japan (アドラ・ジャパン)
宮城県山元町 やまもと復興応援センター

国内事業担当
副センター長

渡辺 日出夫

山元町の被災状況



■津波浸水区域

○浸水範囲面積 24km²(総面積64.48km²の37.2%)

○推定浸水域にかかる人口 8,990人

(平成23年2月末現在人口の53.8%)

○推定浸水域にかかる世帯数 2,913世帯

(平成23年2月末現在世帯数の52.4%)

■家屋への被害(平成24年10月5日現在)

- 全壊 2,217棟(うち流出1,013棟)
- 大規模半壊 534棟
- 半壊 551棟
- 一部損壊 1,138棟





■ 人的被害数

(平成24年8月31日現在)

○ 死者 632人

○ 行方不明者 1人



LAWSON

野菜

コンビニ

避難所の状況

★災害発生3日目の平23.3.13(日)時点
避難所数 18カ所(自宅の自主避難含む)
避難人数 3,846人

★避難所数及び避難人数のピーク
平23.3.14(月)時点
避難所数 19カ所
避難人数 5,826人
二次避難所 5ヶ所(3,846人)

Y12
11:00

(1) 8:00-9:00 6.5
(2) 13:00-14:00 19.2
(3) 18:00-19:00 3.8

Y12
9:00 47700
19:00 49600

3/5

上野	35	35	
中野	28	36	0
中野	16	16	
中野	91	91	
中野	32	32	
計	517	9	
計	152	152	
計	223	223	
計	145	145	
計	20	20	
計	1239	239	

水



3/12
11:00
46名
0
89名
0
73名
00

*横堀の方は
「その他(田舎以外)
の窓口」
食事をもらって下す
*田舎内会の管理が
いかにめ

3/15	朝	昼	夕	3/16
上飯田	35	35		
横堀	28	36	0	
中河原	16	16		
中村	71	71		
公園	32	32		
宿	517	529		
やい	152	152		
その他	223	223		
和田	145	145		
救急室	20	20		
計	1239	1259		

(食事支給時間)
① 8:00時
② 13:00時
③ 18:00時
*通車時間1.47

3/13 8:00
約700名
3/13 19:00
約600名

お知らせ
本日(3/17)より野内会は、避難所
と軍でございまして、食事は
ご利用できません。
食事は、5時以降は、
本部より食べ物を
配給します。
避難所本部

3/16 上飯田 199
武道館 25
3/17 その他(外) 371
朝食 499
夕食
385 (44世)

避難所の状況

- 基本的に避難者が主体的に運営
- 中学校避難所では「ペット同伴避難者部屋」「インフルエンザ隔離部屋1種～3種」「要援護者部屋」など空いている教室を全て活用していた⇒建物環境に恵まれていた
- 避難所運営委員会なども立ち上がったが、一部の人に負担がかかることもあり、5月頃から運営に携わっていた避難者に疲れやストレスがたまり、小さないざこざも起きた

- 要援護者でもある外国人（特に中国系）が最初避難していたが、自分達に分かる情報はいらないことと、疎外感を受けたため避難所をすぐにでた
- 自宅を開放して約30人の近隣住民を受け入れて避難所としていたところがあったが、行政が避難所として認めるまで時間がかかったため、約2週間は共助だけで過ごした
- 福祉避難所などの準備もされていなかったの
で、発災後も福祉避難所などが立ち上がることもなかった



山下中学校避難所

ボランティア募集

調理ボラ・トイレ清掃ボラ・配膳ボラ

校舎清掃ボラ・警備ボラ・自警団ボラ

案内ボラ(増員)・物品配付ボラ

子ども世話やきボラ・給水ボラ

新聞配付ボラ(新規) 校舎消毒ボラ(新規)

連絡員ボラ

ラジオ体操ボラ(新規)

今の避難所は
要援護者に
冷たい

災害時要援護者とは

いわゆる「災害時要援護者」とは、必要な情報を迅速かつ的確に把握し、災害から自らを守るために安全な場所に避難するなどの災害時の一連の行動をとるのに支援を要する人々をいい、**一般的に高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊婦等**があげられている。

要援護者は新しい環境への適応能力が不十分であるため、災害による住環境の変化への対応や、避難行動、避難所での生活に困難を来すが、必要なときに必要な支援が適切に受けられれば自立した生活を送ることが可能である。

(災害時要援護者の避難支援ガイドラインより)

忘れられている 外国人支援

被災した在日外国人の声 (山元町以外含む)

- 最初の1～2日は、みんな優しくしてくれるがそれ以降は誰も助けてくれない
- 外国語の情報が何も無い(食事などもいつ配付されるのはわからない)
- 避難所に行っても居場所がない
- 宗教的に食べられないものなどの区別がつかない(食べ物があわない)
- 避難所の電話で国際電話をかけさせてもらえない(母国に連絡がとれない)

避難所に行きたくない

提 言

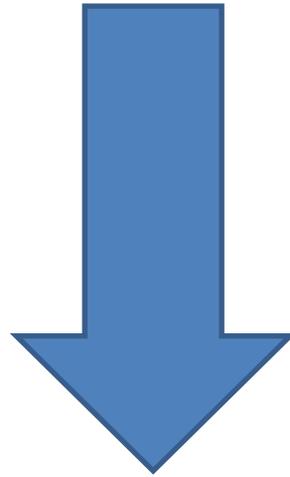
要援護者をベースとした避難所作り

- 今後、高齢化や多文化共生化が進むとみられるため避難所及び応急仮設住宅などは「要援護者」が過ごしやすい環境をベースに考える。
- 想定されている東海・東南海地震、首都直下地震などは在日外国人が多いだけでなく、外国人観光客も多くみられる地域でもある。そのため外国人対応もしっかり考えていくべきである。

例えば・・・

- 外国語が出来るNPOや企業などとの協定や協力による支援
- 易しい日本語や外国語による表記
- アレルギー食と同様にベジタリアン(菜食)の充実
- 国際電話もかけられるようなサービスや環境の提供
- 平時からの住民理解への啓発
などなど

要援護者が過ごしやすい環境



みんなが過ごしやすい環境

